

多摩消防団だより

第34号

発行
令和8年8月吉日
多摩消防団
広報部



多摩消防団長
井田 久

新年度を迎え、消防団活動へのご理解とご協力に心より感謝申し上げます。

近年は自然災害が頻発・激甚化する中、地域防災の担い手として消防団の役割はますます重要となっております。

私たちは「自分たちの町は自分たちで守る」という使命のもと、訓練を重ね、地域の皆様が安心して暮らせるまちづくりに努めてまいります。

本年度も団員一丸となって活動を推進するとともに、地域の皆様との連携を大切にしながら、防災力の向上に取り組んでまいります。

引き続き、温かいご支援とご協力をよろしくお願いいたします。



多摩消防署長
中村 浩二

平素より消防署の各種事業の推進に対し、温かい御支援と御協力を賜り、心より感謝申し上げます。

近年、全国各地において地震や集中豪雨などの自然災害が激甚化・頻発化しております。また、昨年は市内の救急出動件数が四年連続で過去最多を更新し、火災件数も三年連続で過去十年の最多となるなど、災害対応力の一層の強化が求められております。

こうした状況のもと、各種災害から区民の皆様の生命・身体・財産を守るため、本年度も消防職員・団員が一丸となり、地域の安全・安心の確保に努めてまいります。

今後とも、御理解と御協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

辞令交付式

令和八年四月十一日、川崎市消防訓練センターにて、辞令交付式が行われました。井田久団長のもと、新たに昇格した団員ならびに新入団員に対して辞令が交付されました。

また、退団された方にも辞令が交付されました。退団された方におかれましては、永年に亘り誠にありがとうございました。

性能検査・女性消防訓練

令和八年四月十一日、川崎市消防訓練センターにて、性能検査および女性消防訓練が行われました。

各班の消防機材の点検と、女性団員においてはホースキットを使った訓練を行いました。みんな真剣な表情で訓練に取り組みました。



第二十三回多摩消防団消防大会

令和八年六月十四日に川崎市消防訓練センターにおいて多摩消防団消防大会が行われました。

当日は梅雨時にもかかわらず晴天に恵まれ、多摩消防団全九チームがこれまでの訓練の成果を存分に発揮しました。

優勝班班長挨拶

中野島班班長 松浦 慎剛

今回の大会に關して、堂々たる点数で中野島班として恥じない結果を出せたのも日々班員みんなで力を合わせた結果だと私は思います。

これまでの大会に向けた訓練と中野島班の操法に心から敬意を表します。

皆様、本当にありがとうございました。

これからは後輩達の指導に集中して、更なる中野島班のレベルを高めていきます。

そして、引き続き中野島だけではなく、広域防災を視野にいれて多摩区の防火防災の活動もしっかり取り組んで参ります。



第23回多摩消防団消防大会 優秀選手

指揮者	稲田分団	宿河原・堰班	高橋 雅之
1番員	稲田分団	宿河原・堰班	相模 恵唯
2番員	稲田分団	宿河原・堰班	濱田 義隆
3番員	稲田分団	中野島班	松浦 慎剛

水防訓練

令和八年六月十九日、多摩川河川敷において水防訓練を行い、救命ボートの組み立て及び土砂災害発生時の人命救助訓練を実施しました。参加者全員が真剣に取り組み、災害時に迅速かつ的確な対応ができるよう、実践的なスキルの向上を図ることができました。



新人研修

令和八年五月二十三日、神奈川県消防学校において、新人研修が行われました。

参加者感想

長沢班班員 吉田 秀磨

消防団の新人研修に参加し、集団行動やボートからの放水、ホースの結合などを体験しました。

最初は慣れない動きも多く緊張しましたが、団員同士で声を掛け合いながら行動することの大切さを学ぶことができました。特に、放水訓練では、実際のホースの重さや水圧の強さを体験しました。

ホース結合では、迅速かつ正確な作業が求められました。また、操法大会の練習にもなりました。

多摩消防団広報部

本団広報部長 大貫 欽也
 生田分団部長 鈴木 勉
 稲田分団部長 森田 博史
 稲田分団部長 田村 英喜
 生田分団団員 岩崎 重雄
 生田分団団員 仁藤 久喜
 生田分団団員 川内 拓也
 稲田分団団員 小峰 庸
 稲田分団団員 平山 諒典
 稲田分団団員 古谷 和之
 稲田分団団員 齋藤 彰
 稲田分団団員 小林 誠一
 稲田分団団員 鈴木 正樹

編集後記

第三十四号発行「多摩消防団だより」に際し、ご協力頂きました皆様にお礼申し上げます。

多摩消防団広報部一同

公式Instagramはこちら
 川崎市多摩消防団
 kawasaki_tama_fire

